

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	学校企画課長 高橋 泰幸	電話番号	0852-22-5408
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	高等学校奨学事業			
目的	(1) 対象	高等学校等に在学する生徒		
	(2) 意図	奨学金を貸与することにより、修学の機会均等を図る		
事業概要	公益財団法人島根県育英会が行う高等学校等奨学資金事業に補助金の交付を行う			

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		100.00	100.00	100.00	100.00	
		貸与者数/貸与することが適当な申請者数	実績値	100.00	100.00	100.00	100.00		%
			達成率		100.00	100.00	100.00		%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		0.00	0.00	0.00			
		実績値	0.00	0.00	0.00	0.00			
		達成率		0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	146,659	160,430
うち一般財源(千円)	67,132	115,948

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	③改善策を検討中
---------------------	----------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度	貸与者数	選考人数	採用人数	辞退人数
予約奨学生	280	234	190	44
予約奨学生緊急奨学生	数名	17	15	2
在学奨学生	170	134	122	12
在学奨学生緊急奨学生	数名	7	6	1

予約奨学生、在学奨学生ともに計画どおりの採用ができており、目的は達成されている。奨学金貸与により、生徒の修学機会の確保に成果をあげている。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

緊急奨学生枠の創設により、奨学生の募集締切後に奨学金の必要が生じた生徒への対応が可能となった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・返還対象者の急激な増加への対応
- ・累積滞納額の抑制と解消への対応

②困っている状況が発生している「原因」

- ・今後、返還対象者の大幅な増加が見込まれている
- ・それに伴い債権管理業務が一層膨大になると予想されている

③原因を解消するための「課題」

- ・返還対象者の増加への対応や累積滞納額の抑制・解消に向け、返還対象者や滞納者に対する継続的な働きかけを着実に実施するための組織体制の強化や、さらなる工夫を通じた収納管理の適正化・効率化の促進

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・徴収業務担当者の増員など組織体制の強化
- ・サービサー（徴収業務の外部委託）の導入促進

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）